

7 改めて ○

『先輩、五分遅刻ですよ』

『あの、遅れるなら遅れるって連絡入れてくださいね？』

『もしかしたら事故にあったんじゃないかって、すごく心配したんですから』

『それに・・・』

そ、そんな息切らしながら謝らないでください  
次から気をつけてくれればそれでいいですから』

『でも珍しいですね？』

先輩が遅刻なんて』

『私…いや、彼女とのデートが楽しすぎて夜更かしして寝坊したとか』

『あはははっ、先輩っ！』

口笛へたっ(笑いながら)』

『ふふっ、あははははっ』

あー、おっかしい』

『ごめんなさい、先輩があまりにもわかりやすいのでつい』

『でもそういうことなら今日の遅刻は許してあげます』

『それじゃ行きますよ先輩！』

~~~~~

『着きました』

そうです、また服です』

『何か不満でも…』

てちよっと、

なんで前来た時より挙動不審なんですか』

『これから何度も来ることになるんですから、もうっ!』

『さ、入りますよ』

今日は私が先輩を服を選んであげる予定でしょ?』

『そんなんじゃ彼氏として恥ずかしいですよ』(耳元で)

『ふふっ、単純でよろしい:』

あっ、これとかどうですかね

先輩に似合うと思うんですよ私』

『先輩って普段は本読んでて地味に見えますけど』

『身長は高いし、細身でスタイルいいんですから』

『こう、やって

顔を見せるように髪を上げて

こういうジーンズ穿いて、ジャケット羽織ると:』

『うん、さっすが私  
センスがいい』

『さっ先輩、鏡見てきてください

きつと今の自分悪くないって思いますよ?』

『ほーら、ここ立ってください』

『ね?』

悪くないでしょ?』

『先輩性格は:うん、まあ人それぞれなのでいいとして  
外見はそこそいいんですから、もっと自信持ってください』

『少なくとも私は

先輩の中身も好きです、よ？

えへへっ

・・・』

『なっ、

なにか言ってくださいよお…』

『それに、いつもなら先輩が照れて私が茶化すところじゃないすか』

『別に、

いつも通りからかっただけですって、ほんとです』

『調子狂いますねえ…

なんか今日の先輩ずるい！』

『だから、そんなマジな顔しないでください』

『遊びじゃ、すみませんよ』

(声は震えてる)

『は？ちょっと！

仕返しにしてはやりすぎですよ!?!』

『もうっ！

反省してるならこの後のご飯は奢ってください』

『それで許してあげます

それでも破格の条件なんですからね？』

『もおー！なんでそこで笑うんですか』

『はい！もうおしまい！

この話はここでおしまいです』

『お昼行きますよ！』